

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書

2010年7月28日提出

|                           |  |         |  |
|---------------------------|--|---------|--|
| 申請年度                      | 2010年度（平成22年度）   |         |  |
| 所属学科                      | 臨床心理学科   | 報告者・職氏名 | 准教授 陸 君  |
| 海外出張内容<br>(種別に)           | 目的 14 <sup>th</sup> Biennial Hemingway Society Conference in<br>Lausanne, Switzerland 2010<br>(第14回ヘミングウェイ国際学会を参加と口頭発表する為に)<br>訪問国・地域 スイス・ローザンヌ<br>助成額 235,000円  |         | ・ <input type="checkbox"/> 学 会<br>( <input type="checkbox"/> 発表有 / 無 )<br>・ 調 査<br>・ 会 議<br>・ セミナー |
| 期 間                       | 2010年6月26日(土) ~ 2010年7月4日(日)   |         | 7泊9日   |
| 上記出張期間<br>の研究・調査等<br>活動経過 | 6月26日・伊丹空港 成田 パリ ジュネーブ空港 ローザンヌへ駅への移動<br>6月27日・午前中は大会へ到着の登録や聴講・午後2:30から自分の口頭発表<br>6月28日~7月2日・大会の参加<br>7月3日・ローザンヌ駅 ジュネーブ空港 日本への移動<br>7月4日・成田空港に到着 伊丹空港   |         |  |
| 研究・調査<br>発表等概要            | ヘミングウェイは、1941年にニューヨーク PM 新聞の記者として3番目の妻と共に日中戦争の最中の中国前線に3ヶ月間の旅をした。この知られざる旅について、アメリカと中国の研究者によって、80年代以来出版された数冊の研究書の中に扱われることになった。しかし、それらの研究者の殆どが、この中国の旅に関する部分がヘミングウェイの文学作品にも書かれている事実を知らなかった。<br>4年前に、日本ヘミングウェイ学会にて「ヘミングウェイと中国の3ヶ月旅」の口頭発表後、この旅と小説の関連事実を究明する為に、彼の没後に出版された小説を中心に研究した。意外にも1970年にヘミングウェイの遺稿で出版された小説『海流の中の島々』の中に、8ページにも及んだ香港の滞在エピソードが書かれていたことを発見した。と同時に、2006年に出版された Peter Moreira の“Hemingway on the China Front”の本にも少し触れたことが分かった。<br>この新しい発見を、今回の第14回ヘミングウェイ国際学会にて、次の点について発表することとした。ヘミングウェイの3ヶ月の中国旅の目的 行った場所と会った重要人物 PM 新聞社に発信した6つの中国前線レポートの分析 小説『海流の中の島々』に書かれた香港物語と実際の滞在経験との関連。この研究発表により、会場から大きな拍手により新発見への公認を受けた。 |         |  |
| 研究・調査<br>発表等々の<br>成果の概要   | ヘミングウェイの3ヶ月に渡る中国の旅の時代背景と政治的な意義を究明した。<br>ヘミングウェイの新聞記者としての観察力と分析力、そして人間力を更に証明した。<br>中国の3ヶ月の旅はヘミングウェイの心にどんな印象を残したかを、彼の小説『海流の中の島々』から明らかにした。<br>ヘミングウェイ学者に於ける、ヘミングウェイが中国の旅を自身の作品に扱ったことがないという概念を是正した。  |         |  |
| 研究・調査<br>等の成果<br>発表予定     | 図 書：学会誌「ヘミングウェイ研究」(The Hemingway Review of Japan)第12号<br>に投稿予定。(2011年6月に出版)  |         |  |